



災害への備え

佐味 愛奈

～ 自然災害伝承碑 ～

引用：画像文章Wikipediaより **自然災害伝承碑**

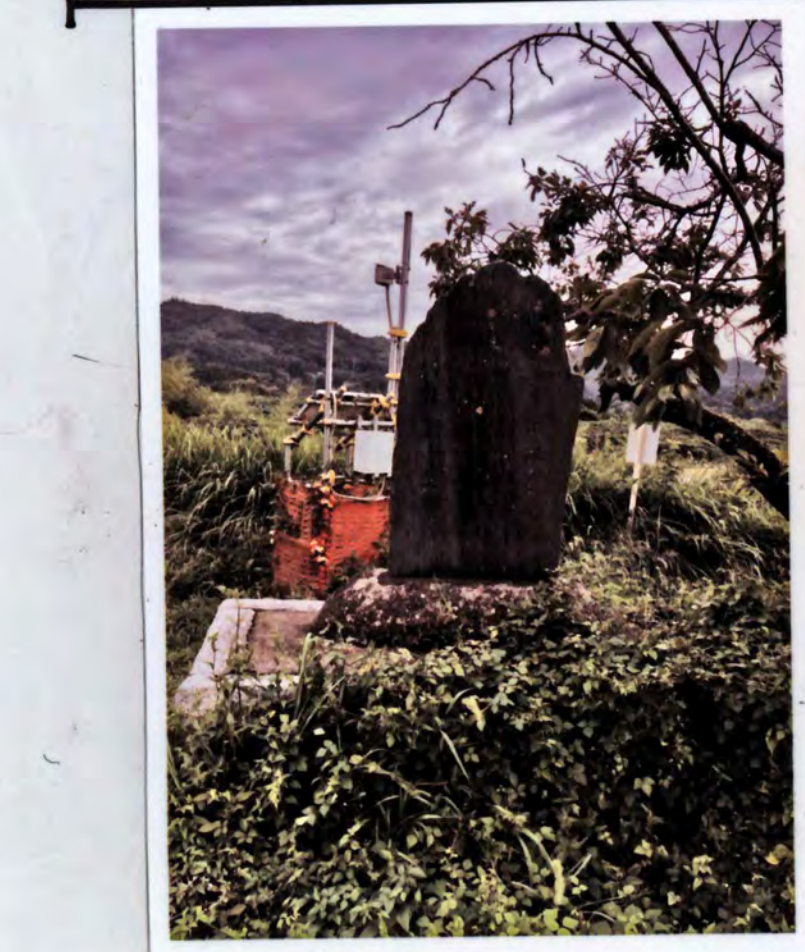
自然災害伝承碑とは、地震、津波、洪水、噴火といった大規模な自然災害の状況や教訓を後世に伝え残すために作られた災害碑

この伝承碑には被災現地に設置されていることが多く「身近な災害の歴史を学び教訓を未来に伝える」という意義を有している



碑名	可忍(おそるべし)
災害名	洪水 (1890年8月7日)
災害種別	洪水
建立年	不明
所在地	茨城県久慈郡大子町大字袋田1972-10
伝承内容	旧大子村の被災者は死者4名、流失家屋13棟、浸水家屋230戸を数え、町家の大半が浸水した。この石碑は建立時より高い位置に初設されている。

碑名	築堤記念碑
災害名	洪水 (1938年9月1日、1941年7月22日)
災害種別	洪水
建立年	1952年
所在地	茨城県常陸太田市野口
伝承内容	昭和13年9月1日、昭和16年7月22日の豪雨では大洪水が発生し、野口地区は氾濫に襲われ、被災者は約20名に及んだ。



碑名	関東東北豪雨連続浸水深碑
災害名	平成27年9月関東・東北豪雨 (2015年9月10日)
災害種別	洪水
建立年	2011年
所在地	茨城県常総市水海道新取町3222番地3
伝承内容	平成27年9月10日、数日間降り続いた豪雨により、地味約3分の1が浸水した。この碑上部の横線が常総市役所水海道庁舎構内の浸水深を示している。



碑名	明治二十三年洪水被害記念石碑
災害名	洪水 (1890年8月7日)
災害種別	洪水
建立年	1891年
所在地	茨城県久慈郡大子町大字袋田 (国道118号沿道)
伝承内容	明治二十三年8月7日、久慈川沿岸は大洪水に見舞われ、吉田神社境内では、約1.5mの洪水が押し寄せた。人や家畜が流され、田畑や家屋も流失して大きな被害となった。

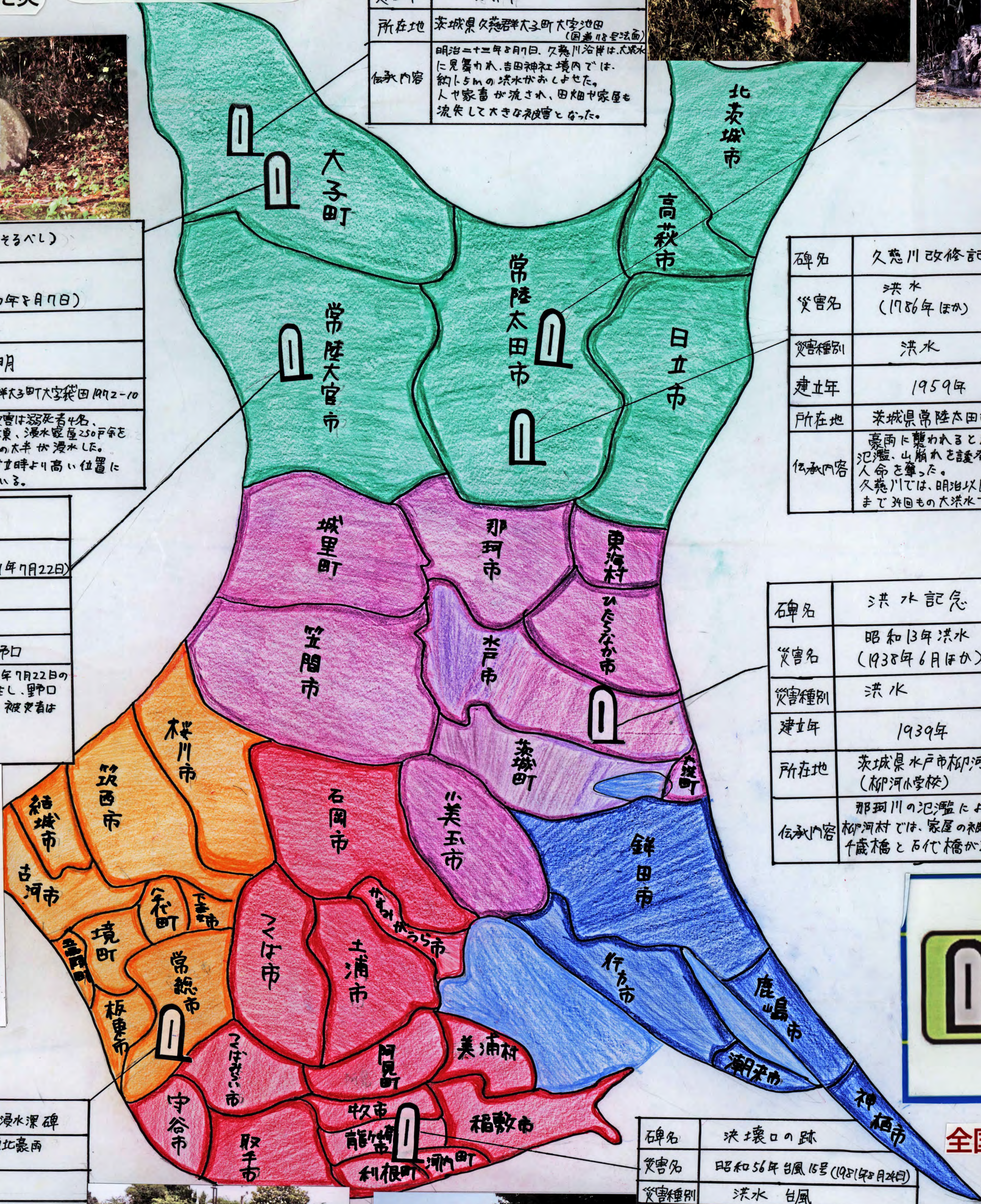


碑名	久慈川改修記念碑
災害名	洪水 (1786年ほか)
災害種別	洪水
建立年	1959年
所在地	茨城県常陸太田市上河合町
伝承内容	豪雨に襲われると河川は氾濫も氾濫、山崩れも発生し、多くの人命を奪った。久慈川では、明治以降昭和20年代まで3回の大洪水で風水害が連続した。

碑名	更生(こうせい)
災害名	昭和13年洪水(1938年6月)
災害種別	洪水
建立年	1940年
所在地	茨城県常陸太田市西宮町256
伝承内容	昭和13年6月、台風により里川で、堤防が決壊し、畑一面に泥濘になった。石碑のある西宮地区では30ha以上の耕地が甚大な被害を受けた。



碑名	洪水記念
災害名	昭和13年洪水 (1938年6月ほか)
災害種別	洪水
建立年	1939年
所在地	茨城県水戸市柳河町 (柳河小学校)
伝承内容	那珂川の氾濫により、柳河村では、家屋の被害、千歳橋と石代橋が流出した。



2019年～
13年ぶりの『新しい地図記号』
→ 国土地理院のWeb上の地図に掲載
自然災害伝承碑
過去に起きた「震災」「津波」「洪水」「土砂災害」など自然災害の情報を伝える石碑やモニュメントを表す記号

全国の災害碑



引用：https://www.gsi.go.jp/common/000234578.pdf

まとめと感想

昔の人が伝承碑として災害の内容を石に刻むことで「多くの人を亡くした悲しみを繰り返してほしくない」という強い願いが込められていて、この思いを無駄にすることなく、今後の防災に役立てていくことが必要だと思った。

茨城県の災害碑

2022年8月現在
茨城県36基

